

## なからぎ

228号

2020年1月

## 重なる出会いに導かれて

学長 築山 崇

伝記などを読んでみると、人、もの、土地などとの偶然の出会いが、人生を決定づける契機となったというエピソードがしばしば登場しますが、決定的瞬間に出会っているまさにその瞬間にそれと気づくことはできない……、そんなことを、この「なからぎ」に初めて寄稿させていただいてから、20数年。

ようやく、私にもそれらしい出会いが見えてきました。南信州伊那谷の松川町です。偶然目にした健康学習の記録集がきっかけで、この町を訪れ、住民の学習グループとの交流が始まりました。自分たちで作った料理を囲み、楽しく健康談義に興じる住民の姿は、保健師さんの巧みなリードとともに、学習が持つ本来の魅力を鮮烈に印象づけるものでした。私の中で暮らしと学習が一つにつながった瞬間でもありました。その後学生とともに再三町を訪れ、果樹栽培農家の暮らしの一端にも触れながら、住民の創意あふれる学習活動からたくさんのことを学ばせていただきました。面倒な慢性病を抱えていた身には、ある種切実さも伴って、社会教育・生涯学習へと研究の軸が定まっていった日々でした。

その松川町を、高校生の自分が訪れていたことに、かなり後になって気づくことになります。高校3年の夏休み、当時松川町の山間集落で行われていた「学生村」という受験生向け民宿で3週間ほどを過ごしていたのです。谷あいの農家の牛小屋の2階、板張りの部屋で友人とふたりひと夏を過ごしました。その間に、志望分野、大学が大きく変わりました。法律から、教育・人間形成の実践と理論へ。そして仙台から京都へと。夕暮れの山道を歩きながら、ふと心が動いたように思います。

松川町は、2度にわたって私の人生の転機となっていたのです。2019年秋は、お世話になった林檎農家に久しぶりに立ち寄り、亡くなられたご家族を偲びつつ、旧交を温めることができました。寂しさと懐かしさが初冬の夕景と重なりました<sup>1</sup>。



伊那谷 南アルプスを望む梨畑

1 松川町を知る本『健康学習とその展開——保健婦活動における住民の学習への援助』松下拓著、勁草書房、1990年

松下拓（まつしたひろむ）さんは、松川町で小学校教員、社会教育主事として長年活躍された方で、健康学習、生涯学習に関連する多数の著書があります。

## 人はなぜ花を愛でるのか

文学部和食文化学科 佐藤 洋一郎

2003年秋、上賀茂にある総合地球環境学研究所に着任のあいさつに訪ねたわたしに、日高敏隆所長（当時）はこう言われた。

「佐藤さん、人間はどこまで遺伝できるのでしょうかねえ」

わたしは何やら謎をかけられたような気分になった。人格形成の面では、遺伝と環境はいわば水と油の関係のように考えられてきた。日高さんは当初、遺伝学を専攻したわたしを少し警戒していたようだ。環境学の研究所の所長として、環境の大切さを強調しておこうということだったのかもしれない。

日高さんとはなぞかけ問答のようなやりとりがその後も幾度かあった。時には攻守を替えて。あるとき日高さんが、「人はなぜ花が好きなのでしょうね」と、まるで遺伝子決定論者のように問われたことがある。「人が昔から花好きとは限らないでしょう」というと、「でも、ネアンデルタール人は死者に花を手向けたそうですよ」と返してこられる。イラク北部のシャニダールの洞くつで見つかったネアンデルタール人の埋葬場所から多量の花粉が見つかり、死者に花を手向けたのではないかと話題になったことがある。後日、これは花を集める習性をもつネズミの、しかもかなり新しい時代の仕業だったという説も登場し、今では否定的に見る向きも多いが、日高さんは「シャニダールの花」の話がいたく気に入っていたようだった。人は数万年も前から花を愛でていたと言いたかったらしい。この議論が発端となって、研究所主催で「人は

なぜ花を愛でるか」というシンポジウムが開催された。その記録は同名の書籍として東京の八坂書房から出版されて話題になった。

さて話は前後するが、日高さんとのやり取りのずいぶん前、わたしは、考古学者の佐原真さん（国立歴史民俗博物館・元館長）と対談したことがある。「弥生土器には花をモチーフにした絵がない」という話題になり、それがなぜかを巡って議論が展開したのである。多くの植物に囲まれた日本列島に住んだ弥生人が花を知らなかったわけでもあるまいに、いったいなぜ絵にしなかったのだろうか。彼らは花を愛でなかったのだろうか。それとも、愛でてはいたのだが絵にしなかっただけなのか。佐原さんは、少し考えて「この問題は宿題として考えさせてください」とおっしゃった。その後いろいろな遺跡の発掘報告書を中心にずいぶんいろいろ調べて下さったようだったが、結局は納得のゆく答えに行きつかなかったようで、後日、丁寧なお断りのお手紙をいただいたのを覚えている。

ところで、花とは、植物学的には次世代のいのちである種子をつけるためのしかけである。めしべの根元には動物の卵にあたる胚珠があり、めしべの先端にある柱頭には花粉を受ける仕掛けがある。花粉は虫によって運ばれることが多い。それなので色とりどりのはなびらをつけて虫を誘っている。とまあ、このように習った人も多いだろう。しかし、この言説はどこまで本当だろうか。日高さんによると、チョウの目には、花は人間の目で見

えるように鮮やかには見えていないという。ならば、花に惹かれているのは人間の方で、虫たちではないのかもしれない。そもそも、色香に迷うのは人間の特技である。だから、花の色をみて虫を誘う仕掛けと見えるのではあるまいか。

となると、またぞろ最初の問いが頭をもたげてくる。人はなぜ花を愛でるのか、である。この問いに向き合う前に、ある仮説に触れておきたい。その仮説とは、「花は、人に愛でられるためにあのようなあでやかな色、形を生み出した」というものだ。

花が、種（しゅ）を次世代に残すための仕掛けであることは先に書いたとおりである。人類がアフリカを出て世界に散っていったのが数万年前から 1 万年ほど前まで。そしてやがて住み心地のよいところに定住するようになる。もともと人は移動者だったが、1 万年前になると、人口増によって住みよいところにはおおた先住者がいた。定住は、種族繁栄のなせる業だったのである。日本でも、縄文時代の中期頃には定住のあとがみられるようになる。定住することで、人間は農耕などを覚え、発酵食品のような運搬困難な食品を生み出してゆく。住むために森を払い火を放って畑を開く。だから、集落の近くの生態系はいつもかく乱され、樹木のような寿命の長い種よりも草のように 1 年単位で世代を更新する種のほうがよく適応するようになった。多年草である樹木の中でも、より寿命の短い種が有利になった。

そのような植物たちが生き延びる作戦が、その花で人の関心を惹くようにすることだったのであるのか。上古、かく乱はそれほど強くはなかった。花も、それほど強く自分をアピールする必要に迫られてはいなかったであろう。この時代の花たちはどれも後の時

代の『万葉集』に登場する花のように小ぶりな花で控えめである。桜は縄文時代からすでにあった花だが、それらは水上勉が『櫻守』で「やわらかい赤みをおびたうすみどりの新葉のつけ根に、太ぶりの花卉のつく」と評した山桜の系統であったらしい。古代には中国渡来の花たちが表舞台に表れた。都の中心で暮らした貴族たちは、はるか大陸の先進国へのあこがれを花に託したのである。厄災の時代の中世、人びとにとって花もまた無常と映る。秀吉の醍醐の花見もまた、『櫻守』の桜の花見であった。

花が今のように、あでやかで大振りになったのは近世以降のこと。朝顔、菊、牡丹などの花が、品種改良により一斉に、大きく、また色鮮やかになった。桜もまた改良が進み、人工交配によって名作「ソメイヨシノ」が誕生したのである。そして今。生命技術は発展をつづけ、「青いバラ」「巨輪の朝顔」など、今までこの世になかった新しい花を次々登場させ、今や神の領域にまで手が届きそうな勢いである。畏れを忘れた人類は、自然をも制覇しつつあるかに錯覚している。この錯覚によって、人はもはや、万葉の花には満足ができなくなりつつある。

結局のところ、花の美しさとは人の心を花に投影させた結果なのではあるまいか。「花を愛でること」とは、人類の自己愛なのかもしれないとさえ思われる。救いは、まだ神を畏れる心が完全に失せてしまったわけではないことだろうか。樹齢数百年を超える桜の古木を、人はまだ愛し続けている。岐阜県・根尾谷の「薄墨の桜」は樹齢 1500 年ともいわれる。この数字の真偽はともかく、その淡い、陰りを帯びたかの地味な花をこよなく愛する心は、無常のはずの花が今に生きながらえたことへの想いを映す心でもあるのだ。

## 電子ブックを利用しよう

電子ブックとは電子化された書籍のことで、パソコン等の端末からインターネットを介して閲覧することができます。本学では様々な分野の電子ブックを契約しており、それらは大学ネットワークに接続されたパソコンから利用ができます。

ここでは図書館で契約している電子ブックの利用方法を紹介します。研究や学習、就職活動の情報収集や企業分析等にご活用ください。



### 〈電子ブックの利点〉

- ・ 図書館の開館時間以外でも閲覧ができる。
- ・ 学内ネットワークに接続されたパソコンであれば、館外からでも閲覧ができる。
- ・ 書籍の本文等から検索ができる。
- ・ 電子化されたデータを拡大・縮小して閲覧ができる。

### ○ 利用できる電子ブック

「飛鳥史跡事典」、「同名異人事典」、「環境史事典：トピックス1927-2006」等の事典・辞書類、「新訂増補国史大系」\*1や「就職四季報」\*2、「会社四季報業界地図」、シュプリングー社発行の洋書等が電子ブックで閲覧できます。その他、「住宅建築」、「発達」、「人工知能」、「自然保護：日本自然保護協会」等の雑誌\*3も閲覧可能です。(2019年3月現在3,236点)

- \* 1 1巻～25巻、53巻～57巻、別巻1のみ。
- \* 2 「総合版」の他に「優良・中堅企業版」、「女子版」があり。
- \* 3 雑誌によって、閲覧できる巻号及び期間が異なります。  
「住宅建築」と「発達」は最新号も閲覧ができます。

### ○ 利用対象者

京都府立大学の学生及び教職員

### ○ アクセス方法

- ・ 図書館の学内専用インターネットコーナーや1号館2階情報処理室、研究室等の学内ネットワークに接続されたパソコンから利用できます。
- ・ 学外からは、「学術認証フェデレーション (学認)」を利用することで、電子ブックが利用できます。詳しくは、「京都府立大学ホームページ>学内専用ページ>学術認証フェデレーション (学認)」([http://www3.kpu.ac.jp/?page\\_id=165](http://www3.kpu.ac.jp/?page_id=165))をご覧ください。
- ・ 原則、同時アクセス数は1です。

電子ブックへのアクセス方法は、主に以下の3通りがあります。

#### 1. OPAC からアクセスする。

##### 詳細検索画面 (OPAC)

OPAC 詳細検索画面で、分館指定と提供形態を選択して、キーワードや書名等を入力します。検索結果一覧から読みたい電子ブックを選びましょう。


##### 検索結果詳細画面 (OPAC)

電子ブックの情報が表示されたら、「電子ブックを表示」または「IDENT」の URL をクリックすると、提供元サイトのページに遷移します。

※本資料は、株式会社リコーより提供された「LIMEDIO OPAC 画面データ」を用いて本学にて作成しました。

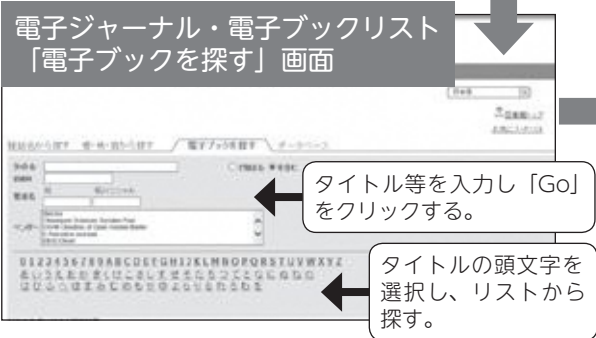
## 2. 電子ジャーナル・電子ブックリストからアクセスする。

**図書館ホームページ**



図書館ホームページから「電子ブック」をクリックします。

**電子ジャーナル・電子ブックリスト  
「電子ブックを探す」画面**




タイトル等を入力し「Go」をクリックする。

タイトルの頭文字を選択し、リストから探す。

**Check!**

電子ジャーナル・電子ブックリストは、大学が契約している電子資料だけでなく、無料公開されている資料も検索ができます。


**リンクメニュー**



「電子ブックを探す」画面から検索します。リンクメニューが表示されたら、「フルテキストへのリンク」をクリックすると、提供元サイトのページに遷移します。

## 3. 提供元サイト及びタイトル一覧からアクセスする。

**電子ジャーナル・電子ブックリスト  
「データベース」画面**



① ②

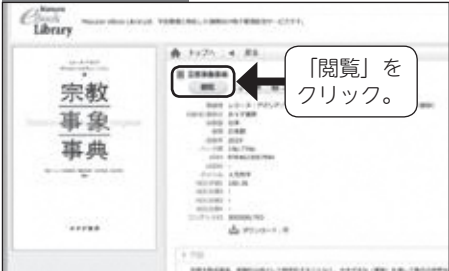
電子ジャーナル・電子ブックリスト「データベース」画面で提供元サイト及びタイトル一覧 (PDF) が確認できます。

①提供元サイトへのリンク  
②タイトル一覧へのリンク

### ○ 提供元サイトでの閲覧方法

※以下は Maruzen eBook Library を例にしています。提供元により画面や機能が異なります。

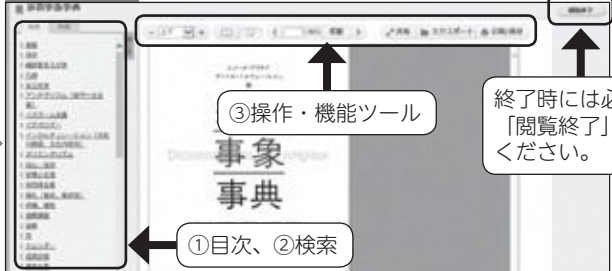
**詳細情報画面**



「閲覧」をクリック。

電子ブックの詳細情報が表示されたら、「閲覧」をクリックし閲覧画面を表示します。

**閲覧画面**



①目次、②検索

③操作・機能ツール

終了時には必ず「閲覧終了」してください。

①目次タブ 目次から読みたいページに移動ができます。  
②検索タブ 本文検索ができます。  
③操作・機能ツール 拡大・縮小、見開き等のレイアウト変更、ページ移動、印刷・保存等ができます。

**Check!**

- 資料により、印刷及び保存可能枚数が異なります。詳細情報画面や閲覧画面に書かれている利用条件を確認し、著作権法の範囲内でご利用ください。
- ※ Maruzen eBook Library の場合、「印刷 / 保存」から、上限枚数が確認できます。
- 学内で他の方が閲覧しており、同時アクセス数がオーバーしている場合、本文を表示することができません。時間を置いてご利用ください。

### ○ 利用上の注意事項

ご利用は本学構成員 (教職員・学生等) に限ります。利用規約及び著作権法を厳守してご利用ください。

## 図書館からのお知らせ

### ◆春休み長期貸出について

春期休業に伴い、長期貸出を行います。ぜひご利用ください。

対象期間：1月24日(金)～3月24日(火)

返却期限：4月8日(水)

貸出冊数：学部生、大学院生・・・・・・・・・・12冊

上記以外の学生、教職員・・・・・・・・・・6冊

- ・長期貸出をした資料は、貸出期間の延長はできません。
- ・4回生、大学院生、教員はさらに以下の冊数を特別貸出で借りることができます。

4回生、大学院生・・・・・・・・・・1ヶ月 6冊

教員・・・・・・・・・・4ヶ月 20冊

### ◆卒業・修了予定の皆様へ

現在貸出中の図書は、2月29日(土)が最終返却期限です。

卒業・修了される前に、必ず返却をお願いします。

また府内在住・在勤の方は、利用登録を行えば引き続き図書の貸出等の利用ができます。

### ◆府大コーナーについて

カウンター前の府大コーナーには、府大の教員著書や大学院生の博士論文、及び一部の修士論文を置いています。ぜひご利用ください。

## カレンダー

### 開館時間

平日 9:00～ 21:00	土・日 9:00～ 17:00	休館 第2水曜日 祝日 年末年始
----------------------	-----------------------	---------------------------

※平日17時以降及び土日には行っていないサービスがあります。  
ご了承ください。  
詳しくは、図書館ホームページでご確認ください。

2020年1月							2020年2月							2020年3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4							1							
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	8	9	10	11	12	13	14
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	15	16	17	18	19	20	21
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	22	23	24	25	26	27	28
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29	29	30	31				

★12/18(水)～1/4(土) 臨時 & 年末年始休館  
★1/14(火) 冬休み長期貸出返却日  
★1/17(金)～2/7(金) 府民貸出停止期間  
★1/24(金)～3/24(火) 春休み長期貸出期間  
(返却予定日：在学生は4/8(水)、卒業・修了予定者は2/29(土))

★2/8(土)～ 府民貸出再開

★3/25(水)～ 府大学生、教職員通常貸出開始